

<テーマ1> 予算要望書の交流について・・・予算要望 G

- ①今年度参考調査として行った修学旅行・宿泊学習における「就学援助補助対象外経費以外の経費調査」の次年度以降調査を行うか？

調査を行った結果、交通費と見学料しか補助対象にならないため、宿泊費などが負担になっている現状が明らかになった。

→小学校については内訳が多岐に渡り、中学校については交通費、見学料だけで対象経費を超過するという現状がある。宿泊学習のスタイルが変わってきているので（ホテルへの宿泊、自主研修の実施など）就学援助の対象内容との整合性が取れなくなってきた点を踏まえ要望していかなければならないのではという意見。また、就学援助の位置づけ、子どもの貧困について考えていくことを事務職員側からもっと発信していいのではないか。

（まとめ）

次年度以降も調査を行い、改めて、「就学援助対象経費以外」のものを全て書いてもらえるよう、分かりやすい形で提示していきたい。（学級費など他の私費負担項目から出てる経費も含め）

また、修学旅行、宿泊学習の行き先も含めて調査し、時代に沿った補助内容になるよう要望し、また調査も活用し、要望事項に盛り込んでいきたい。

- ②スキー学習バス代調査で、前年度、一昨年度の経費比較のための調査を行ってはどうか？

バス代高騰にあたり、今年度最低限1回分のバス代補助の要望を行うことを目的に調査した。今年度の予算要望書には盛り込んでいないが、過去3年分の調査を行うことができた。

→スキー学習を体育で授業時数をカウントするのか、総合学習でカウントするのかで捉え方が変わってくる。

→小学校は校庭の山で授業としてスキーをやるが、中学校の場合はスキー場に行っただけになってしまうが、そのために道具一式を揃える保護者の多大な負担がある。中学校で授業で行った場合、家庭に金銭的余裕があり滑ったことある子とそうでない子に差がついてしまう。そういった観点からも、スキー学習がそもそも必要かどうかという議論を行う必要がある。

→バスの選定については、出庫から入庫までで料金が変わるように制度が変更になったので、車庫が遠い業者は高くなった可能性がある。

→小学校では補助金が5万8千円から10万円に変更になった。なぜこういう風になったのかはわからないが、上がったことについては評価していきたい。

(まとめ)

次年度の予算要望書では過去3年分の調査を活用していく。
保護者の負担額とバス代の現状については継続して調査を行っていきたい。
その他の観点については部会の中でも話し合いを行っていく。

＜テーマ2＞北海道大学教育学部との交流について…事務局次長

北海道大学の武田さんの卒業論文執筆をきっかけに北海道大学と縁ができ、教育学部教授の篠原氏に依頼されて12月7日に講義を行った。

武田さんの義務教育における公費・私費負担に関する論文については、4月に北海道大学の教育システム研究という大学の論文集に掲載予定でインターネットでも公開されるそうなので、私たちの取り組みの支えにもしていきたい。

＜テーマ3＞講演 学校事務の昨日・今日・明日…富良野市立山部中学校 菅原直樹さん

菅原さんが採用された時期から現在までの学校事務の変遷などについてお話をいただいた。学校事務職員が生き残るためには様々な考え方が必要であること、標準化できない仕事の中で教育にとって本質的な仕事を見つけていくことが重要であるとのこと。

また、富良野市学校間連携会議の概要と取り組みについてもお話いただき、富良野スタンダードについてや、PFシートの活用により保護者負担の軽減＋私費負担の公費化を目指し、予算要望書へと繋げた事例などをご紹介いただいた。

＜テーマ4＞その他実践交流…事務局

東神楽町の東聖小学校の事例について交流を行った。